



„раба
ЛЮБВИ“



わたし、新しい愛に生きています。
時代の黎明に散る女優オリガ。

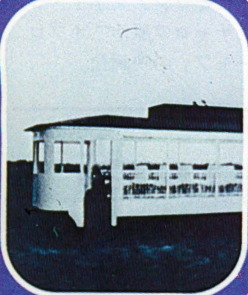
監督 ● ニキータ・ミハルコフ
脚本 ● フリードリッヒ・ゴレンシュテイン
アンドレイ・ミハルコフ
コンチャロフスキー
撮影 ● ハーヴェルレヘシエフ
音楽 ● エドゥアルド・アルテミエフ
製作 ● モスフィルム一九七六年
カラー作品 ● 日本映画映画提供

エレナ・ソロウエイ
ロジオン・ナハトフ
アレクサンドル・カリヤギン
ニキータ・ミハルコフ



機械じかけのヒエノのための未完成の戯曲の
ニキータ・ミハルコフ監督作品

● 第5回テリマン国際映画祭黄金の牛「最優秀監督賞」
● 第13回イエル国際映画祭審査員特別撮影賞



スタッフ
脚本 F・ゴレンシュテイン
A・ミハルコフ=コンチャロフスキー
監督 ニキータ・ミハルコフ
撮影 パーヴェル・レベシェフ
音楽 エドゥアルド・アルテミア
美術 アレクサンドル・アダバシヤン
アレクサンドル・サムレキン
衣裳・デザイン A・ブニコワ

●第5回テヘラン国際映画祭黄金の牛賞
●第13回イエル国際映画祭審査員特別賞
ニキータ・ミハルコフ監督作品

キャスト
オリガ エレーナ・ソロヴェイ
ポトツキー ロジオン・ナハベトフ
カリヤーギン A・カリヤーギン
ユジャコフ O・バサラシグヴィリ

愛の奴隷

製作 モスフィルム 1976年製作/カラー/93分

日本映画提供 *Soyuzdetfilm*



「愛の奴隷」はミハルコフ監督31才の作品で、アメリカやヨーロッパでも公開され、その「幻惑的」な美しさと監

みずみずしい感性で描かれた「愛の奴隷」
「愛の奴隷」はミハルコフ監督31才の作品で、アメリカやヨーロッパでも公開され、その「幻惑的」な美しさと監
美しく、魅惑的な映像
ミハルコフ監督作品の魅力はまづ、叙情的で美しい、流麗な映像にある。そして観客はその魅惑的な映像をとおして、若い監督が内に秘めた、洗練された高い芸術的素養と豊かな知性に驚かされ、なおまた、ユーモアとアイロニーに溢れた楽しい画面にもし出される涙と笑いの微妙な世界に大きな人生の哀感を味わわれるのである。

ニキータ・ミハルコフ監督は
監督としてのきらめくような俊才、役者としての華麗な活躍、それに劣らないシナリオライターとしての精力的活動で、ソビエト映画界でいま最も衆目を浴びている監督の一人。
1945年生れで、モスクワのワフタンゴフ劇場附属演劇学校在学中に「モスクワを歩く」(64)で役者としての人気を得たが、長篇監督第一作「他人の中の同志、同志の中の他人」(74)でその才気煥発な演出ぶりが国際的にも知られることとなり、以後、最新作「善かれ悪しかれ」(82)まで、卒業製作を含め七本を監督、いずれの作品も公開されるや、大きな反響を呼び、各地の国際映画祭でも受賞してきた。

「愛の奴隷」のヒロイン
無声映画のスターとしての華やかな栄光に包まれていた女優オリガ・ヴォズネセンスカヤ。だがかの女は虚飾の座に在るだけで、実は男の意のままになる人生を送っている。まるで、自分の映画「愛の奴隷」のヒロインの如くに。折しも、歴史は世紀末から新しい時代に変わり、ロシアも革命の嵐のなかで変貌しつつあった頃である。
女優オリガに新時代への、そして新しい人生への目を開かせたのはかの女を密かに愛し続けていたカメラマン、ポトツキーである。やがてオリガは自らの手で、偶像のヴェールを脱ぎ捨て、一人の女として、ポトツキーへの愛を貫ぬこうとする。せまりくる時代の怒濤に生命尽きようと...

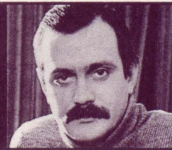
「愛の奴隷」のヒロイン
無声映画のスターとしての華やかな栄光に包まれていた女優オリガ・ヴォズネセンスカヤ。だがかの女は虚飾の座に在るだけで、実は男の意のままになる人生を送っている。まるで、自分の映画「愛の奴隷」のヒロインの如くに。折しも、歴史は世紀末から新しい時代に変わり、ロシアも革命の嵐のなかで変貌しつつあった頃である。
女優オリガに新時代への、そして新しい人生への目を開かせたのはかの女を密かに愛し続けていたカメラマン、ポトツキーである。やがてオリガは自らの手で、偶像のヴェールを脱ぎ捨て、一人の女として、ポトツキーへの愛を貫ぬこうとする。せまりくる時代の怒濤に生命尽きようと...

この映画が本格的な出世作となったエレーナ・ソロヴェイとモスフィルムのニユー・ウエーブを担う監督の一人ロジオン・ナハベトフの共演、パーヴェル・レベシェフのカメラ、アレクサンドル・アダバシヤンの美術ほか、この作品でその後の「ミハルコフ組」がほぼ顔を揃える。

督としての高い手腕を各地で絶讃された。1918年、南露の黒海沿岸の、無声映画のロケ地を舞台に繰り広げられる、女優とカメラマンの悲恋の物語である。



ニキータ・ミハルコフ監督特集 3作品一挙上映!



機械じかけの ピアノのための 未完成の戯曲

脚本 A・アダバシヤン、N・ミハルコフ/撮影 P・レベシェフ/音楽 E・アルテミア/1977年モスフィルム製作/カラー・101分/主演 A・シュラーノフ、A・カリヤーギン



サン・セバスチャン国際映画祭「金の貝殻」賞、昭和55年度芸術祭優秀賞受賞。
チューホフの大学時代の戯曲「プラトノフ」ほか、初期短篇の映画化。世紀末の崩れつつある貴族の田園生活とロシア・インテリゲンチヤをおおう退廃的気分を今日の感覚にあふれるユーモアと諧謔に包んで描きあげた秀作。

オブローモフ の生涯より

脚本 A・アダバシヤン、N・ミハルコフ/撮影 P・レベシェフ/音楽(ペリーニ、ラフマニノフによる)E・アルテミア/1979年モスフィルム製作/2部作/カラー・140分/主演 O・タバコフ、Yu・ボガティリョフ



オックスフォード国際映画祭最優秀作品賞、撮影第一賞、最優秀女優賞受賞。80年カンヌ映画祭出品作。
オレーグ・タバコフらベテラン俳優による見事な俳優アンサンブル、田園風景が美しい叙情的な映像、流麗な音楽で綴る、19世紀ロシア文学I・ゴンチャロフ原作「オブローモフ」の映画化。

4月24日(土)より
ロードショー!!

●特別鑑賞券1200円
発売中(当日一般1500円の処)

三百人劇場 (944) 5451

●4月24日(土)より

愛の奴隷	(日祝のみ)11:30	3:00	6:30
機械じかけ	1:10	4:40	8:05(平日のみ)

●5月8日(土)より

オブローモフ	(日のみ)11:20	3:30	7:35(平日のみ)
愛の奴隷	1:50	6:00	

